

1
ネヘミヤ
聖徒伝 198

エルサレムの 平和のために

ネヘミヤ記1～2章

ネヘミヤの帰還

アウトライン

0. イントロダクション

I. エルサレムからの悲報 1章

II. ネヘミヤの帰還 2章

III. まとめと適用

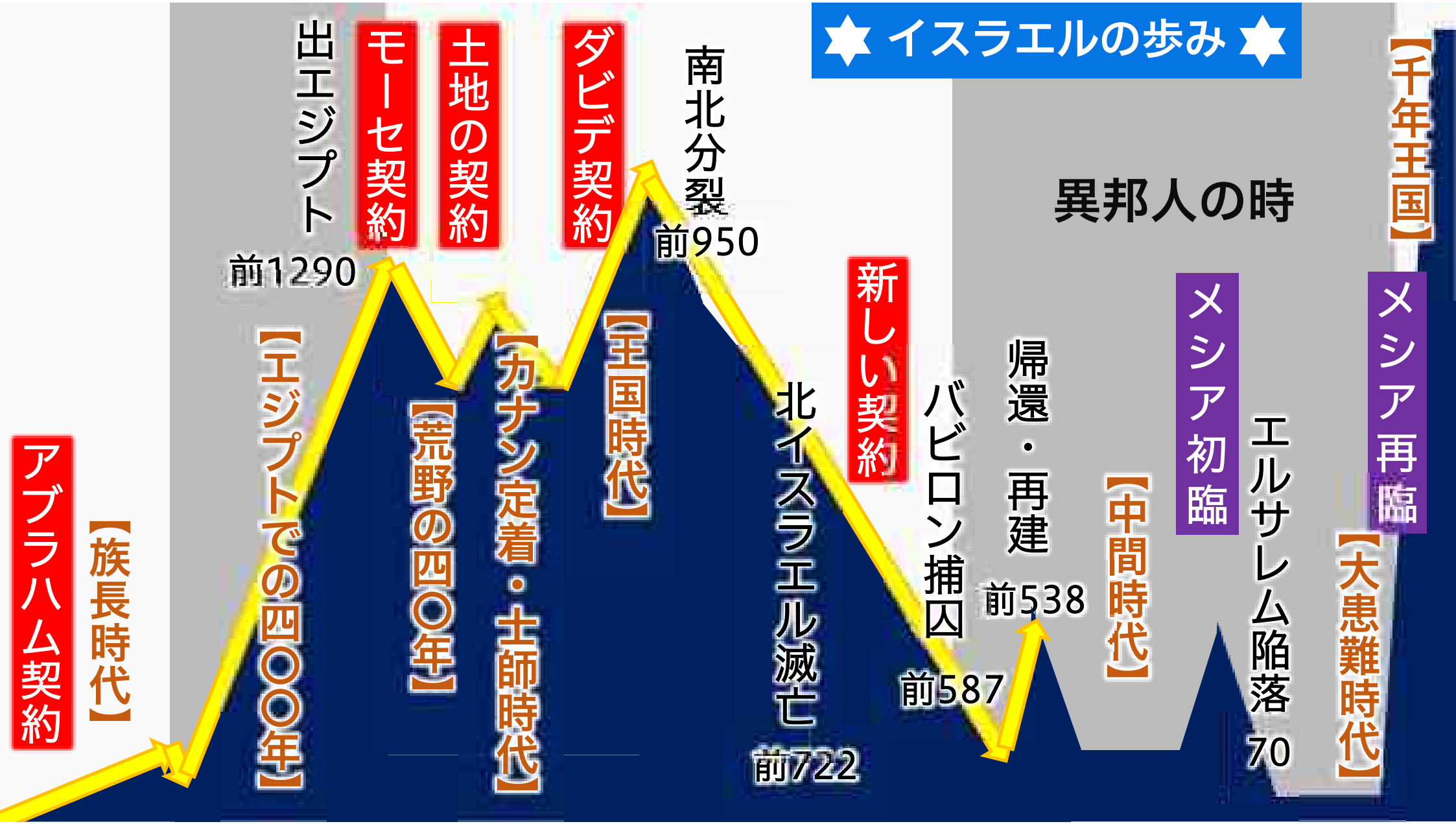
エルサレムの

平和のために祈る



イスラエル平原

★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

前587

バビロン捕囚

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂

前950

ダビデ契約

【王国時代】

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

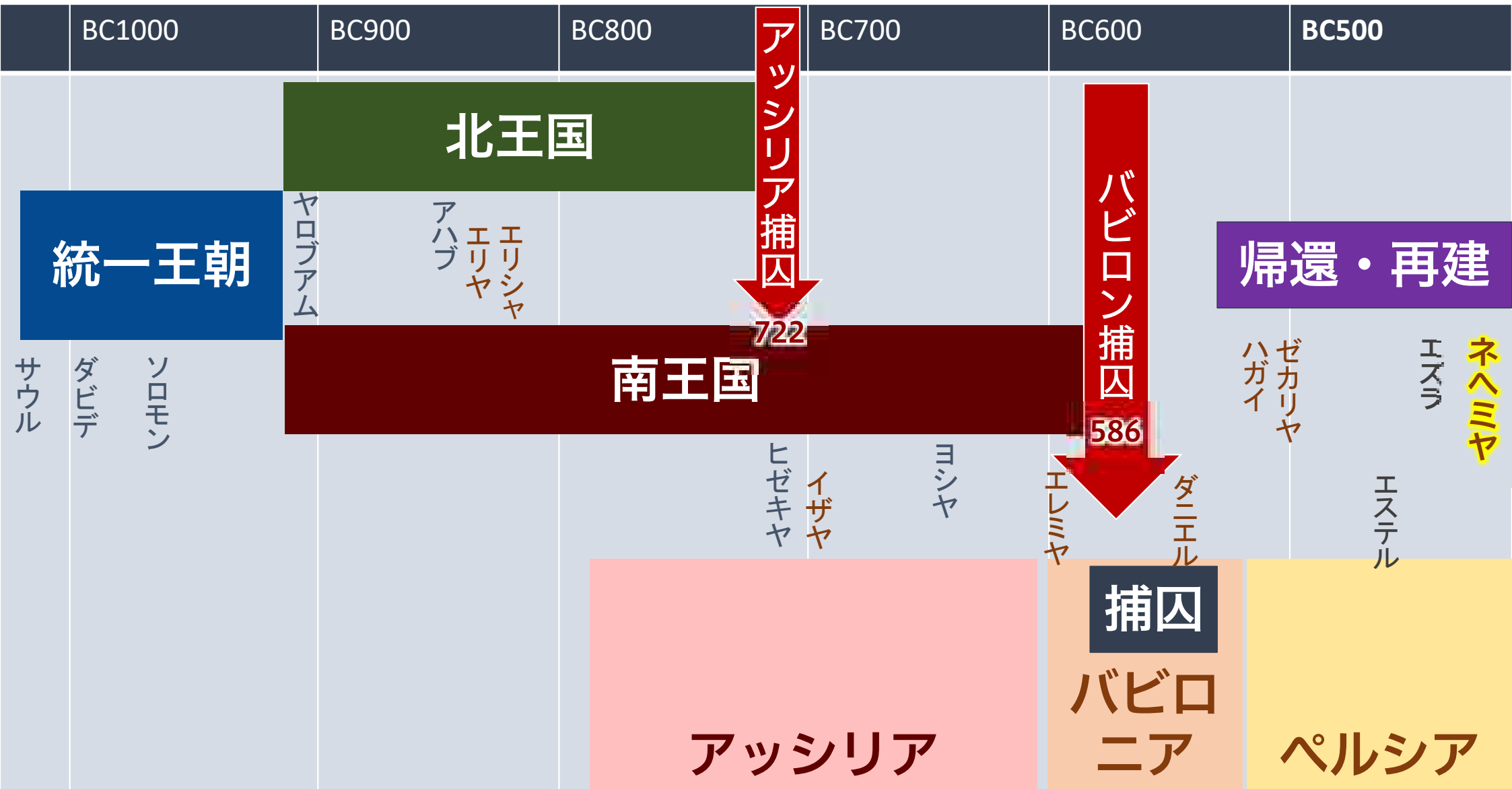
出エジプト

前1290

【族長時代】

アブラハム契約

イスラエル王国史





アケメネス朝
ペルシア

ニネベ



バビロン



スサ



ペルセポリス



エルサレム



エジプト

ネヘミヤ記の構成

1～6章	城壁の再建	1～2章	キュロス王の布告	
		3章	民の参加	
		4～6章	妨害	
7～13章	信仰の再建	7章	民の登録	
		8章	律法の朗読	
		9～13章	罪の告白と契約の締結	

年代表 捕囚後の時代

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	マラキ?!	エステルがペルシャの王女に クセルクス王
前458年 (80年後)	エズラ のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年 (14年後)	ネヘミヤが帰還・城壁再建	

ゼカリヤ書

エズラ記



Ⅰ. エルサレムからの悲報

ネヘミヤ記1章

ペルセポリスの遺跡

報告 ネヘミヤ ネヘミヤ1:1

ハカルヤ*の子ネヘミヤ*のことば。第二十年のキスレウの月*に、私がスサの城*にいたときのことであった。

*“ヤハウエが啓蒙する者”

*“ヤハウエの慰め”

*アルタクセルクス王の在位20年

*11～12月頃

*ペルシア王の冬の宮殿があった

古くからの歴史を誇る町





アケメネス朝 ペルシア

ニネベ



バビロン



スサ



ペルセポリス



エルサレム



エジプト

報告 エルサレムの惨状 ネヘミヤ1:2~3

私の兄弟の一人ハナニが、ユダから来た数人の者と一緒にやって来た。私は、捕囚されずに残された逃れの者であるユダヤ人たちについて、またエルサレムのことについて、彼らに尋ねた。

彼らは私に答えた。「あの州で捕囚を生き残った者たちは、大きな困難と恥辱の中にあります。そのうえ、エルサレムの城壁は崩され、その門は火で焼き払われたまま*です。」

*城壁がない → 日常的に敵に蹂躪されている

■ 町としての体をなしていないエルサレム!!



祈り ネヘミヤの祈り ネヘミヤ1:4

このことばを聞いたとき、私は座り込んで泣き*、数日の間嘆き悲しみ、断食*して天の神の前に祈った。

*エズラの嘆きと同様。(エズラ10:1)

→背後にあるのは民の不信仰

*重い罪の悔い改めや深い悲しみの表現。

■宮廷のきらびやかな生活も捨て去り、
神の民の惨状を嘆き祈るネヘミヤの姿。



エズラたちの帰還によっても回復していない信仰の惨状が!!

祈り 主への呼びかけ ネヘミヤ1:5

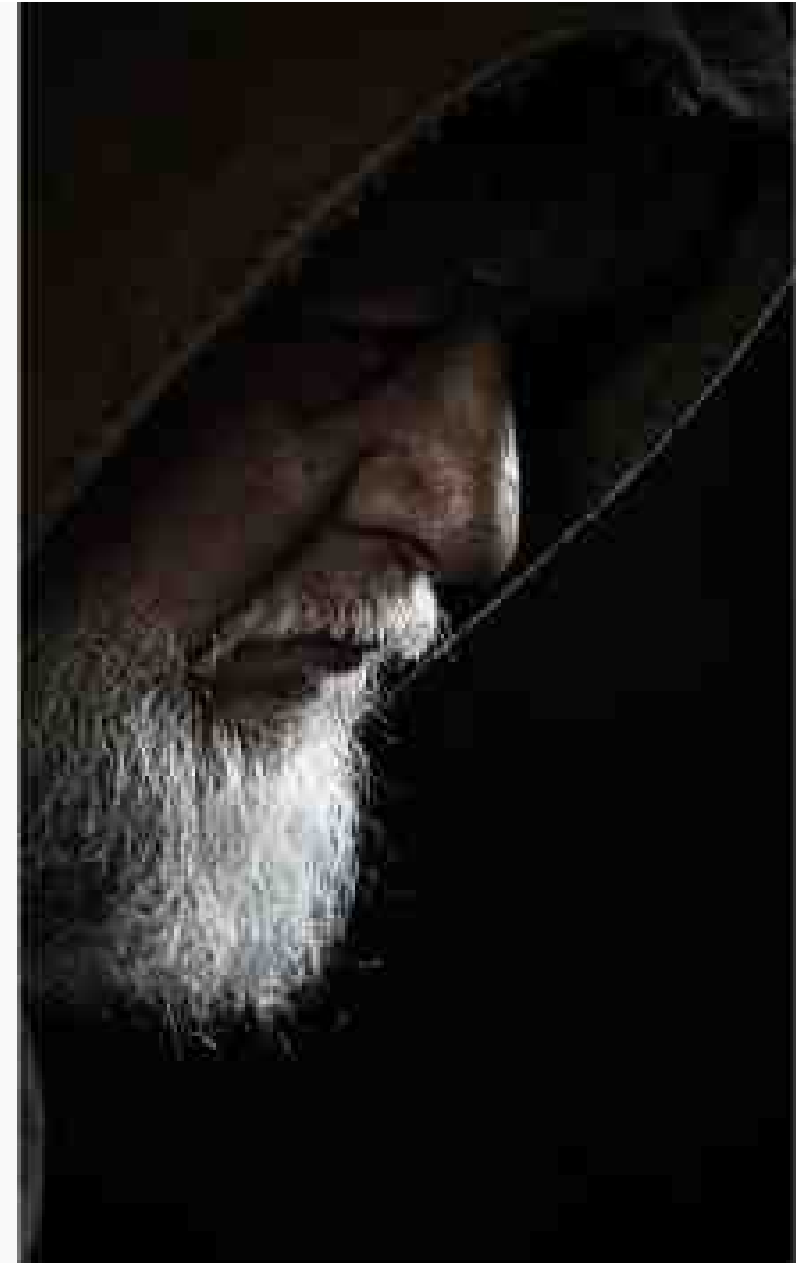
「ああ、天の神*、【主】よ。大いなる恐るべき神よ。主を愛し、主の命令を守る者に対して、契約を守り、恵みを下さる方*よ」

*天地を統べる全知全能の神

■ネヘミヤは、主のご性質*に訴えた。

➡約束を守る義と、一方的な恵みの神

ただ主の約束にのみ生かされている
不信仰のイスラエル



祈り とりなしの祈り ネヘミヤ1:6

どうか、あなたの耳を傾け、あなたの目を開いて、このしもべの祈りを聞いてください。私は今、あなたのしもべイスラエルの子らのために、昼も夜も御前に祈り、私たちがあなたに対して犯した、**イスラエルの子らの罪***を告白しています。まことに、私も私の父の家も罪を犯しました。

***バビロン捕囚を招いたのは、偶像礼拝**

■イスラエルのそもそもの罪に遡って、とりなして祈り、赦しを求めるネヘミヤ。



祈り 破られた律法 ネヘミヤ1:7~8

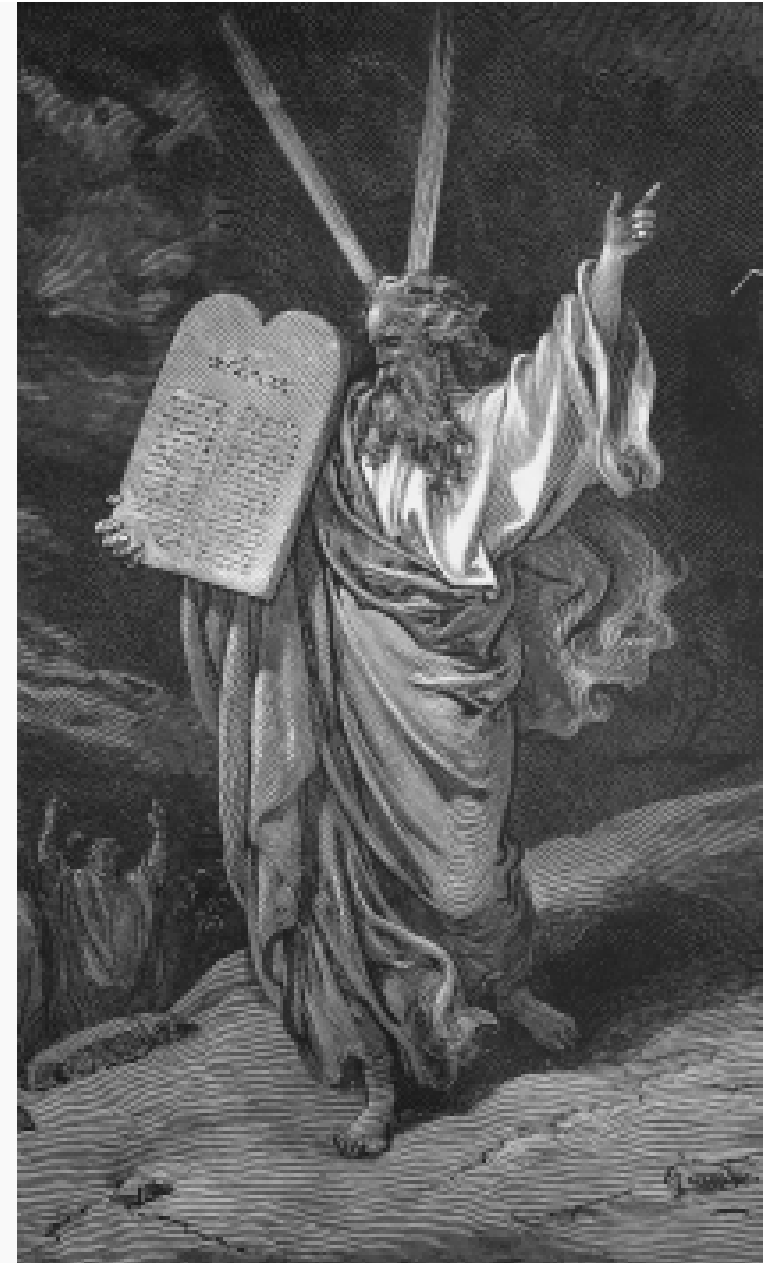
私たちはあなたに対して非常に悪いことをして、あなたのしもべモーセにお命じになった、命令も掟も定めも守りませんでした。

どうか、あなたのしもべモーセにお命じになったことばを思い起こしてください。

■ 律法を守れば祝福、背けば呪い。

➔ 律法破り、偶像礼拝に陥れば、
約束の地を追われると告げられていた。

すぎるのは、神の約束しかない!!



預言 離散と回復の預言 ネヘミヤ1:8~9

『あなたがたが信頼を裏切るなら、わたしはあなたがたを諸国の民の間に散らす。

あなたがたがわたしに立ち返り、**わたしの命令を守り行うなら***、たとえ、あなたがたのうちの散らされた者が天の果てにいても、わたしは彼らをそこから集め、わたしの名を住まわせるためにわたしが選んだ場所に連れて来る』

■「土地の契約(申命記29~30章)」の要約

➔イスラエルは不信仰のゆえに散らされ

信仰によってのみ、回復*される



祈り 神の民 ネヘミヤ1:10

これらの者たち*こそ、あなたがその偉大な力と力強い御手をもって贖い出された*、あなたのしもべ、あなたの民です。

■ 神の約束の民・イスラエル*は、
神が奴隷から贖いだされた*民である。

イスラエルの存在価値は 神の選びにのみある!!

ネヘミヤも、全存在をイスラエルの神にささげた!!



祈り 神の時 ネヘミヤ1:11

ああ、主よ。どうかこのしもべの祈りと、喜んであなたの名を恐れるあなたのしもべたちの祈りに耳を傾けてください。どうか今日、このしもべに幸いを見させ、この人*の前で、あわれみを受けさせてくださいますように」そのとき、私は王の献酌官*であった。

*アルタクセルクス王

*王の食卓の毒味役 …最も信頼の篤い家臣

■すべてを主にささげたネヘミヤの

置かれた状況が、最大限用いられて行く!!



王への直訴は
命がけの覚悟



II. ネヘミヤの帰還

ネヘミヤ記2章

ヨルダン川

嘆願 王の面前で ネヘミヤ2:1~2

アルタクセルクセス王の第二十年のニサンの月*に、王の前にぶどう酒が出されたとき、私はぶどう酒を取り、王に差し上げた。それまで、私は王の前で気持ちが沈んでいたことはなかった*。

すると、王は私に言った。「病気でもなさそうなのに、なぜ、そのように沈んだ顔をしているのか。きっと心に悲しみがあるに違いない」

*現状を聞いてから4ヶ月後。4月頃。

➡祈りながらも機会是与えられないまま…

*本来はゆるされないこと!!



嘆願 恐れの中に ネヘミヤ2:2~4

私は非常に恐れて*、王に言った。「王よ、永遠に生きられますように。私の先祖の墓がある都が廃墟となり、その門が火で焼き尽くされているというのに、どうして沈んだ顔をしないでいられるでしょうか。」

王は私に言った。「では、何を望んでいるのか」

*命をとられても仕方ないほどの粗相

王に尋ねられた以上、答えない訳には…。

決死の覚悟で正直に理由を告げるネヘミヤ



嘆願 ネヘミヤの願い ネヘミヤ2:3~5

私は天の神に祈ってから*、王に答えた。

「もしも王が良しとされ、このしもべにご好意をいただけますなら、私をユダの地、私の先祖の墓のある都*へ遣わして、それを再建させてください。」

*とっさに胸の内で、

心を尽くして祈ったのだろう

*先祖の墓を敬うペルシアの文化に訴えた

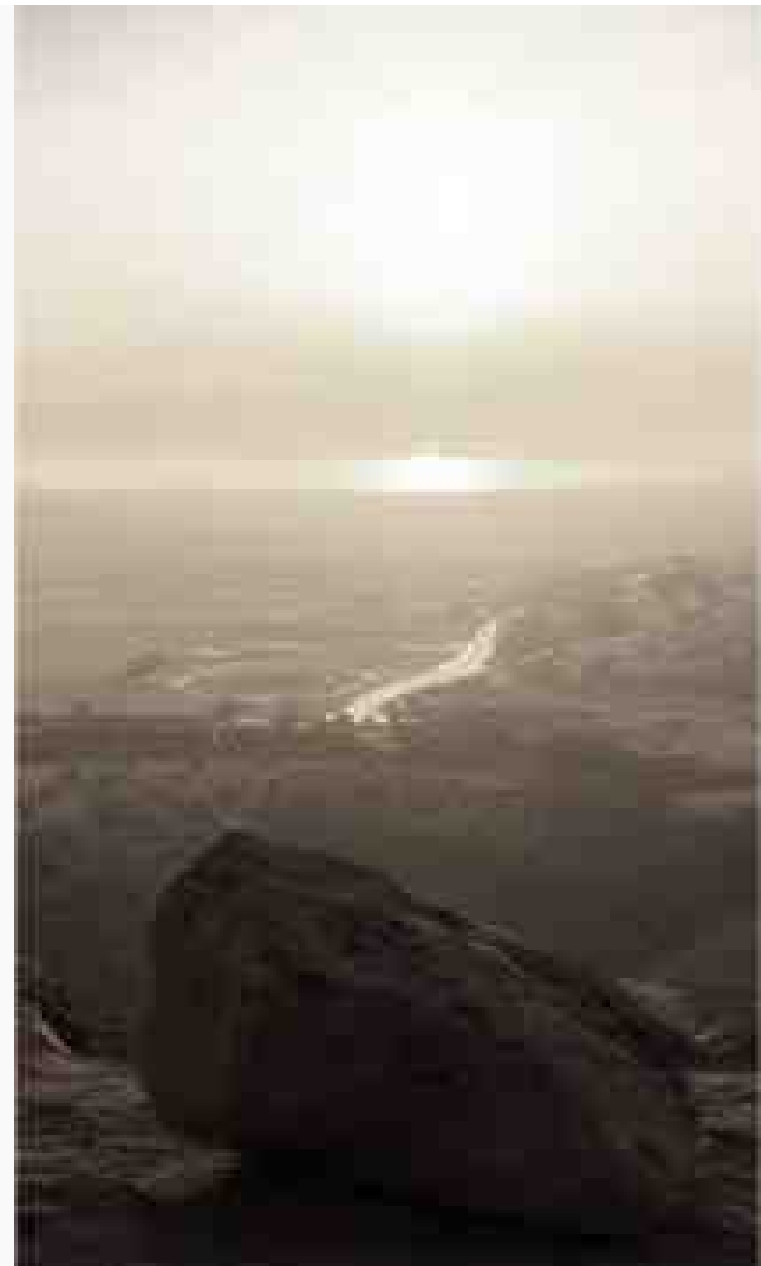


嘆願 旅の詳細 ネヘミヤ2:6~7

王は私に言った。王妃もそばに座っていた。「旅はどのくらいかかるのか。いつ戻って来るのか。」王はこれを良しとして、私を遣わしてくださることになり、私は予定を伝えた。

また私は王にこう言った。「もしも王様がよろしければ、ユダに着くまで私が通行できるように、ユーフラテス川西方の総督たちへの手紙をいただけるとはでしょうか。」

■ 奇跡的に受け入れられたネヘミヤの要望



嘆願 出立 ネヘミヤ2:8~9

「そして、宮の城門の梁を置くため、また、あの都の城壁と私が入る家のために木材をもらえるように、王家の園の管理人アサフへの手紙もお願いします。」 **わが神の恵みの御手が私の上にあったので***、王はそれをかなえてくださった。

それで私はユーフラテス川西方の総督たちのところに行き、王の手紙を彼らに手渡した。王は、軍の高官たちと騎兵たちを私とともに送り出してくださいました。

***神の助けを確信して王に要望したネヘミヤ**



探索 イスラエルへ ネヘミヤ2:10~11

ホロン*人サンバラテと、アンモン人*でその部下のトビヤは、これを聞いて非常に不機嫌になった*。イスラエル人の益を求める者がやって来たからである。

こうして私はエルサレムに着いて、そこに三日間とどまった。

*エルサレムの北25kmの町。サマリア総督。

*ヨルダン川東岸の異邦人

*すでに現れている迫害の兆候



探索 夜の調査 ネヘミヤ2:12~13

ある夜、私は起きて出て行った。ほかに数人の者も一緒であった。しかし私は、私の神がエルサレムのためにさせようと私の心に示しておられることを、だれにも告げなかった。また私自身が乗った動物のほかに、動物はいなかった。

私は夜、谷の門を通過して竜の泉の方、糞の門*のところに出て行き、エルサレムの城壁を調べた。それは崩され、その門は火で焼き尽くされていた。

*南西から出て、谷沿いに巡ったのだろう
南のヒノムの谷 → 東のキデロンの谷



探索 荒廃した城壁 ネヘミヤ2:14~15

さらに、泉の門と王の池の方へ進んで行ったが、私が乗っていた動物の通れる場所がなかった*。

夜のうちに流れ*を上って行って、城壁を調べた。そしてまた引き返し、谷の門を通過して戻った。

*都の周囲は、家畜も通れないほどに荒廃

*都の東側を流れるキデロン川



実行 時が来て ネヘミヤ2:16

代表者たちは、私がどこへ行っていたか、また私が何をしていたかを知らなかった。ユダヤ人にも、祭司たちにも、有力者たちにも、代表者たちにも、そのほか工事をする者たちにも、**その時まで***私は何も告げていなかった。

- 秘密裏に城壁の調査を進め、再建計画を建てつつ、**呼びかける時***を待っていた。
 - 民に呼びかける前に敵に察知されて妨害されないように



実行 呼びかけ ネヘミヤ2:17

私は彼らに言った。「私たちが直面している困難は見てのとおりだ。エルサレムは廃墟となり、その門は火で焼き払われたままだ。さあ、エルサレムの城壁を築き直し、もうこれ以上、屈辱を受けないようにしよう。」

そして、私に恵みを下さった私の神の御手のことと、また王が言ったことば*を彼らに告げた。すると彼らは「さあ、再建に取りかかろう」と言って、この良い仕事に着手した。

*民もネヘミヤと共に主への思いを一つに!!



実行 最初の妨害 ネヘミヤ2:19

ところが、ホロン人サンバラテと、アンモン人でその部下のトビヤ、およびアラブ人ゲシエムは、これを聞いて私たちを嘲り、蔑んで言った。「おまえたちのしているこのことは何だ。おまえたちは王に反逆しようとしているのか*。」

*王の手紙を読んでいるのに!!

■ 明らかな虚偽 → 偽りは悪の常套手段



実行 天の神 ネヘミヤ2:20

私は彼らにことばを返して言った。「天の神ご自身が私たちを成功させてくださる*。それで、そのしもべである私たちは、再建に取りかかっているのだ。あなたがたには、エルサレムのうちに何の取り分も、権利も、ゆかりもない*。」

*主に与えられた働きは、主が遂げさせられる

*エルサレムへの主の恵みは、約束の民のもの

■ 神の約束に信頼しない者には、

永遠の神の恵みは、全く何の関係もない!!





Ⅲ. まとめと適用

エルサレムの平和のために祈る

ネヘミヤの悲しみと決意に学ぶ

- エルサレムの惨状を聞いて悲嘆に暮れたネヘミヤ。
➔ イスラエルの不信仰を示す …エズラたちの働きにも関わらず
- イスラエルの罪を自分自身のこととして必死にとりなし祈った
➔ すべてを投げ打ち、イスラエルのため、主に仕えると決意
- まとものに考えれば、王に個人的要望を告げる機会など存在しない。
➔ 王の面前での失態をも主が用いて、帰還の道を拓かれた。

命すらささげたネヘミヤに主が応えられた

イスラエルを生かす神の憐れみ

- イスラエルは、アブラハムへの約束に従い、主がエジプトの奴隷から贖い出された。
 - ➔ 約束に基づく恵み。イスラエルに理由はない。
- 主は、律法を与え、祝福の呪いの原則を教えられた。
 - ➔ イスラエルは、主に背き、約束の地を追われるが、しかし、必ず再び回復させられる。
- バビロン捕囚からの解放は果たされたが、真の回復は道半ば。
 - ➔ 今もなお、不信仰のイスラエルは神の憐れみに生かされている

ただ主の愛と約束に生かされているのが、神の民

■申命記7:6～8

あなたの神、【主】は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。

【主】があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。

しかし、【主】があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、【主】は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。

主の愛を神の約束の書から学び取ろう

- 身を投げ打つほどにイスラエルを嘆き悲しんだネヘミヤ
→ 何より、**律法**に親しみ、血肉とするほどに知り尽くしていた
- **神の愛と義**は、**約束に基づく一方的な恵み**に現れている。
→ 神の意図に従い、**御言葉**を学ぶことではじめて得られる
- ネヘミヤは、主の御言葉を血肉としていたがゆえに、イスラエルへの主の悲しみを、自分自身のこととして感じ取った

御言葉を命とするほど、主と意思を一つにされていく!!

イスラエルの苦難を思う

- 2000年に渡る流浪、世界中でさらされてきた反ユダヤ主義、全ユダヤ人の三分の一が殺された、ナチスによるホロコースト
- 奇跡的に誕生した近代国家イスラエルは、常に存亡の危機に。4度に渡る中東戦争、和平を求めるほどに激化してきたテロ…。
- 今回のハマスの大規模テロ、犠牲になった南部の住民には、イスラエルでも際だった平和主義者たちが大勢いる。

拒絶されてきたイスラエルの平和へのあらゆるアプローチ

エルサレムの平和のために祈る

- 異邦人信者の第一の使命は、イスラエルをとりなし祈ること。
➔ ネヘミヤのように、イスラエルの罪を自分の罪として祈る
- 神に背き闇の中にいた私を、主が憐れみ、選びだしてくださった。
➔ 一方的な神の恵みによって、私は救いだされてここにいる
- ましてやイスラエルは、神が選ばれた契約の民なのだから、決して見捨てられることはない。 ➔ この礎の上に私の救いもある

**メシアによって示された神の愛と義に
イスラエルが立ち返るように切に祈ろう!!**

イスラエルか？ それ以外か？

- イスラエルを通して二分されていく世界
 - ➔ 究極が大患難時代
 - ➔ 羊と山羊の裁き
- どちらに立つのか？ すべての人が明確に問われる
 - ➔ 主が愛されるイスラエルを愛すること
- すべての人の結末は、二つに一つ
 - ➔ 究極の祝福か？ …栄光の体 永遠の命
 - ➔ 極限の呪いか？ …永遠の滅び、苦しみ

イスラエルの側に立ち、その悲しみを悲しみ、喜びを喜ぼう

★ 信仰が導く ただ一つの結論 ★

■ 「ネヘミヤはすごいなあと思いました。わたしにはできません…」
小学生の感想文のような信仰から抜け出そう。

■ 主が命じられることは、私の力ではできないことに決まっている!!
無理を承知でベストを尽くす時、主が私を用いて働いてくださる。

■ できるわけがないことに、主を信頼して踏み出すのが信仰だ。
打ち砕かれたこの身を、主が満たして用いてくださる。
主に委ねるほかない状態で、はじめて、神の愛に満たされていく。

主を信頼して、直面させられたその課題に向き合おう!!

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

しんこう めぐ しゅ めぐ けいやく わたし つ き
ただ信仰と恵みにより、主の恵みの契約に私は接ぎ木されました。

もと えだ しゅ かいふく
どうか、元の枝であるイスラエルが、主に回復されますように。

えら たみ しゅ めぐ み つ とき き
選びの民が、主の恵みに満たされ尽くす時が来ますように。

わたし しゅ しめい つか もち
私は主の使命のために遣わされます。どうか用いてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」